

食を巡る事件・事故

食品企業の報道対応は

2015年10月1日

日本経済調査協議会 食料産業調査研究委員会

NHK解説委員室

合瀬宏毅

現代は「漠然とした不安」の時代



自分のことを健康だと思う

73.7%

健康について不安がある

61.1%

健康のため気を付けてる

53.9%

厚生労働省「健康意識に関する調査」(2014年)

食を巡る事件・事故

- 2000年 雪印乳業による集団食中毒事件 1万5千人の患者発生
- 10月 安全性未審査の遺伝子組み替えトウモロコシ、スターリンクを広範囲で検出
- 2001年
- 9月 国内初のBSE感染牛みつかる
- 2002年
- 1月 雪印食品の食肉偽装事件が発覚
- 3月 全農の子会社「全農チキンフーズ」の鶏肉偽装事件が発覚
- 6月 協和香料化学の無認可添加物使用で、商品自主回収広がる
- 7月 残留農薬問題で、中国産の冷凍ホウレンソウ輸入自粛を要請
- 8月 全国の農家でダイホルタンなど「無登録農薬」の使用が露見
- 2003年
- 2月 イオンがアレルギー物質混入でプリマハムを告発
- 6月 厚労省が魚の水銀基準を発表し、消費者の間で金目鯛など買い控え
- 7月 食品安全委員会が発足。
- 12月 アメリカでBSE感染牛、アメリカ産牛肉の輸入禁止
- 2004年
- 1月 山口で79年ぶりに鳥インフルエンザ発生
- 1月 アジア各地に鳥インフルエンザ拡大。各国から輸入禁止へ

2月 京都で3例目の鳥インフルエンザ感染。

- 2005年
 - 12月 アメリカ産牛肉の輸入再開
- 2006年
 - 5月 TBSの番組「白インゲン豆ダイエット」で600人以上が腹痛
- 2007年
 - 3月 不二家で消費期限切れの牛乳などを使用して回収へ。
 - 6月 ミートホープ社が挽肉偽装
- 2008年
 - 1月 中国産冷凍ギョーザに毒物混入。10人が入院
 - 10月 政府売り渡しの汚染米が食用として流通していることが発覚
- 2009年
 - 9月 花王が食用油「エコナ」の販売停止
- 2010年
 - 4月 宮崎で口蹄疫、大量の牛豚を処分へ
 - 12月 野鳥の間でも鳥インフルエンザが大流行
- 2011年
 - 3月 東日本大震災で原発事故、食品の放射性物質汚染広がる
 - 5月 ユッケによる食中毒で5人が死亡
- 2012年
 - 7月 レバ刺し禁止
 - 8月 白菜浅漬け、0157汚染で7人死亡
- 2013年
 - 11月 メニュー偽装 全国で発覚
 - 12月 アクリフーズで農薬混入
- 2014
 - 異物混入多発

1. 新たな感染症、食品への不安

BSE、鳥インフルエンザ、口蹄疫
水銀、放射性物質、O157
花王エコナ(新たな知見)

2. 複雑な流通への懸念

香料の無認可添加物問題
汚染米、中国産食品

3. 企業への不信

ミートホープ、鶏肉偽装事件
赤福、船場吉兆
メニュー偽装

マスクミはどう対応？

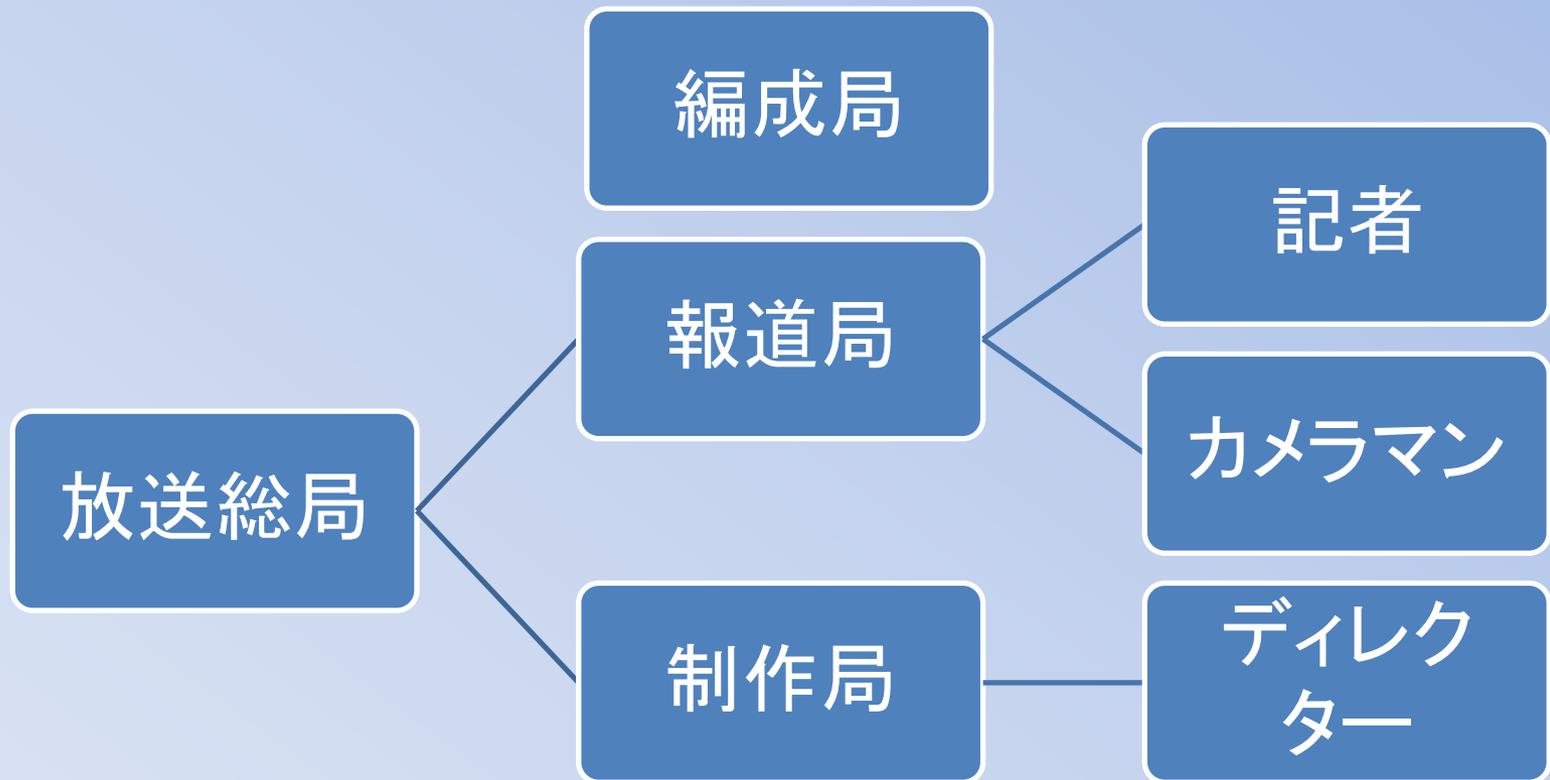
関心高い食の問題



- テレビ局の定番、困ったときの健康、グルメ番組
- 食品、飲料の広告費 年間5000億円 化粧品
の2倍、シェア18%とトップ(電通)
- 食の安全安心問題は、テレビ・新聞にとって「数字のとれるテーマ」
- 子供が絡むと大きなニュースに

事件事故は時代を映す鏡

放送局の組織



ニュース制作体制

編責

調整デスク

CP

政治部

経済部

社会部

科学文化部

国際部

- ・それぞれに40～90名の記者
- ・記者は基本的にクラブ詰め 他に遊軍担当
- ・海外支局、地方局からの原稿も集まる。

一日の作業の流れ

10:00

- 午前の出稿打合せ
- 昼ニュースオーダー

12:00

- 編集会議
- ニュース7・NW9オーダー

15:00

- 午後に出稿打合せ
- ニュース7・NW9オーダー

20:00

- おはよう日本オーダー

番組制作の流れ

発想

リサーチ

提案作成

提案会議

取材・交渉

構成表作成

ロケ・取材

編集

台本作成

ダビング作業

技術打合せ

生放送





土曜朝8:15 ニュース深読み リハーサル



議論は放送直前まで続く

どんな内容を放送するのか？

- 視聴者のニーズはあるか？
- 社会的な影響の大きさ
- 放送の意味はあるのか？
- 誰の視点で描くのか
- 共感と感動があるか？
- 他のニュースとの兼ね合いは？

どういう態勢で取材する？

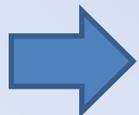
- 本記(事実関係の整理、発表事項)
- 取引先、顧客、被害者
- 従業員
- 専門家の声
- 類似の事件はないか？

(デスク以下 記者4-5人で担当)

変わる食を巡る状況 (消費者の受け取り方は?)

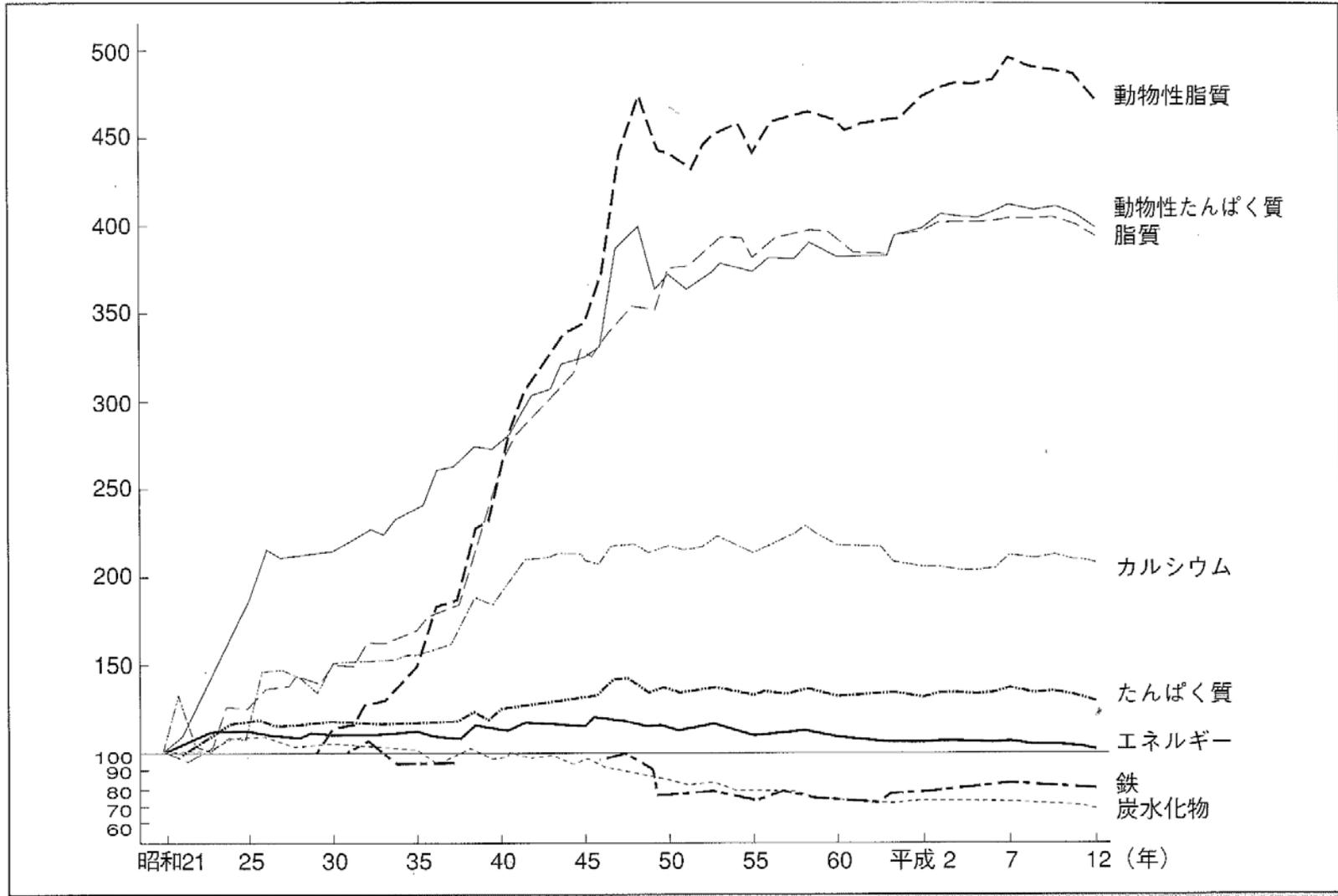
食を巡る環境の変化

1. 加速する大量生産・大量流通
2. 食料の6割が海外から。高くなる加工度
3. 先端科学が食卓へ（遺伝子組み換え）
4. 自然志向の高まり
5. ところが消費者の感覚は鈍感に
 - 検査精度の向上（一兆分の1まで検出可能に）



情報が一人歩きする

栄養素等摂取量の推移（昭和21年 = 100）



注) 動物性脂質については昭和27年 = 100, 鉄については昭和30年 = 100としている。

国民健康・栄養調査



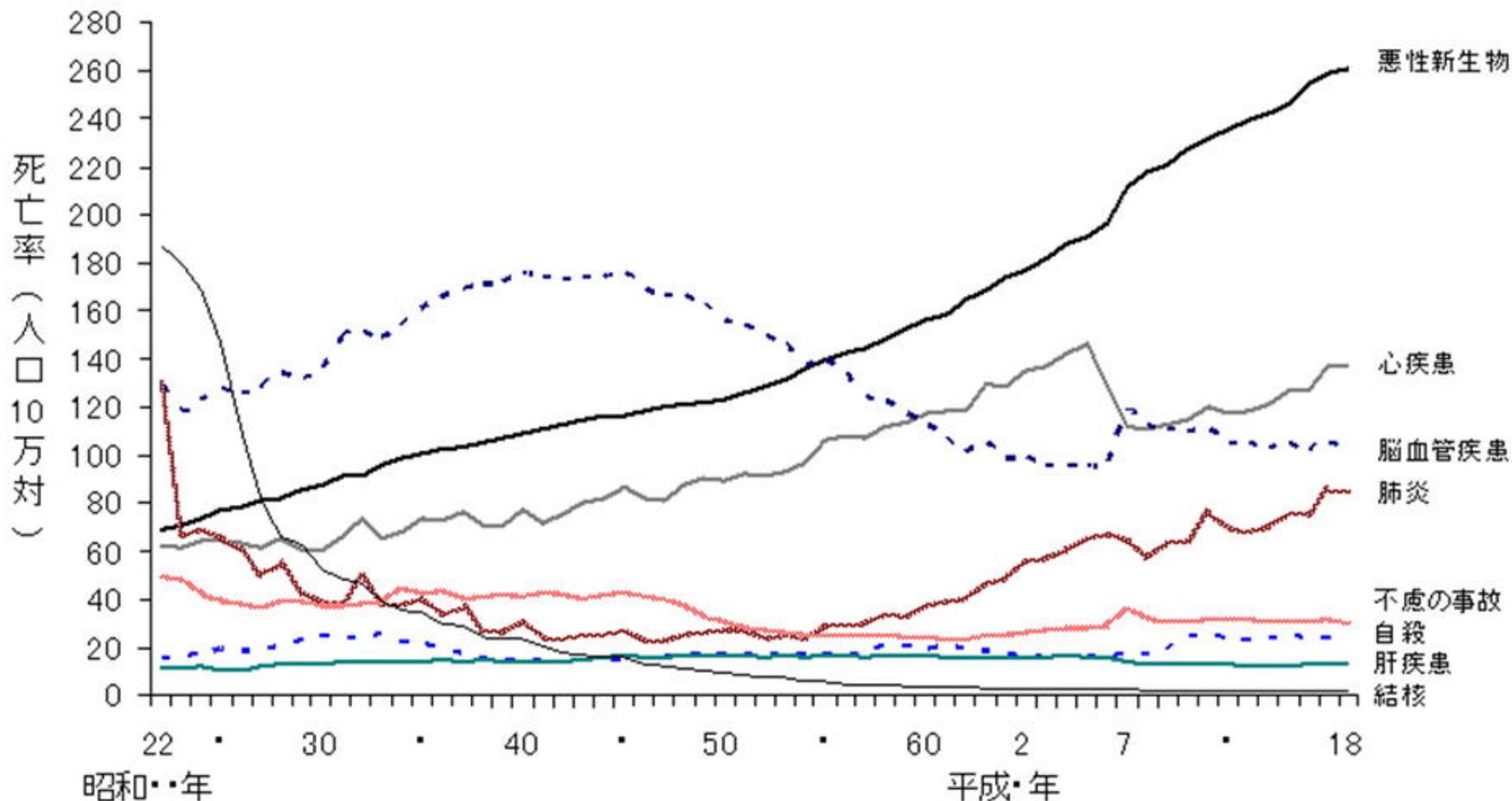
**「糖尿病が強く疑われる人」
890万人**

「糖尿病の可能性を否定できない人」の1,320万人を合わせると、全国に2,210万人



中性脂肪やコレステロールが高い脂質異常症の人は、潜在患者も入れると、2,200万人

感染症から慢性疾患の時代へ



- 注：1）平成6・7年の心疾患の低下は、死亡診断書（死体検案書）（平成7年1月施行）において「死亡の原因欄には、疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください」という注意書きの施行前からの周知の影響によるものと考えられる。
- 2）平成7年の脳血管疾患の上昇の主な要因は、ICD-10（平成7年1月適用）による原死因選択ルールの明確化によるものと考えられる。

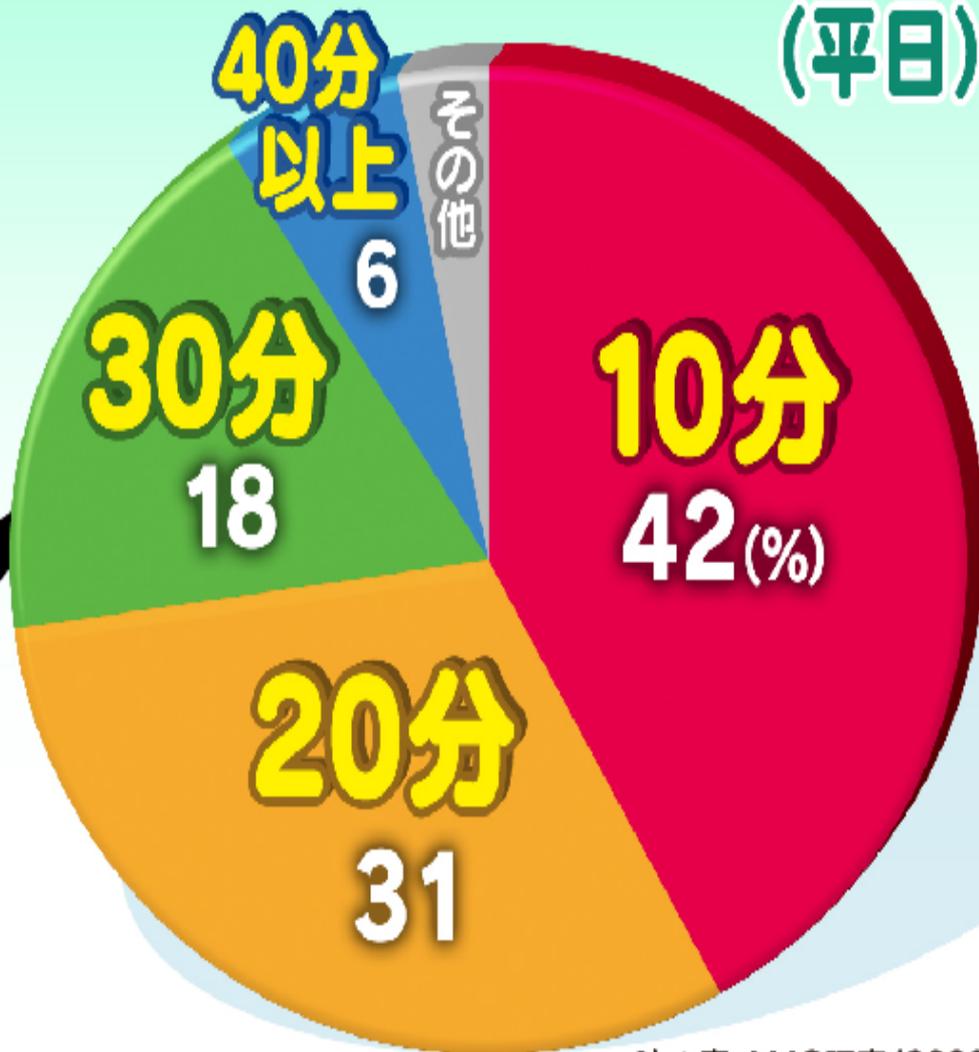
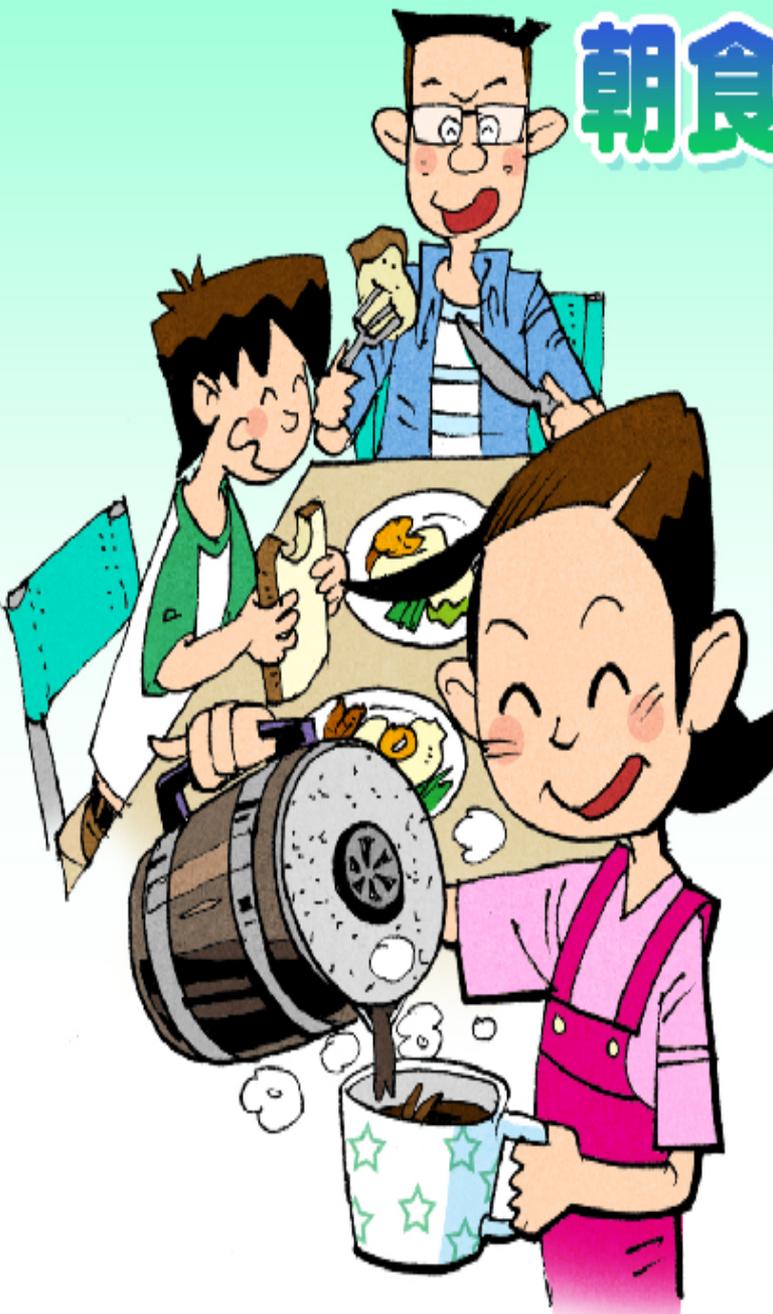
「漠然とした不安」はどこから？

- 慢性疾患は複合的な要因から来る病気
- 化学物質、放射能、ウイルス、遺伝的要因だけでなく、コレステロール、肥満、喫煙、ストレス、運動不足、不規則な食事など原因は多岐に。
- 健康で長生きができるのか？
- 「健康でありたい」という水準の上昇

日本人の死因一位は「がん」

朝食の支度にかかる時間

(平日)

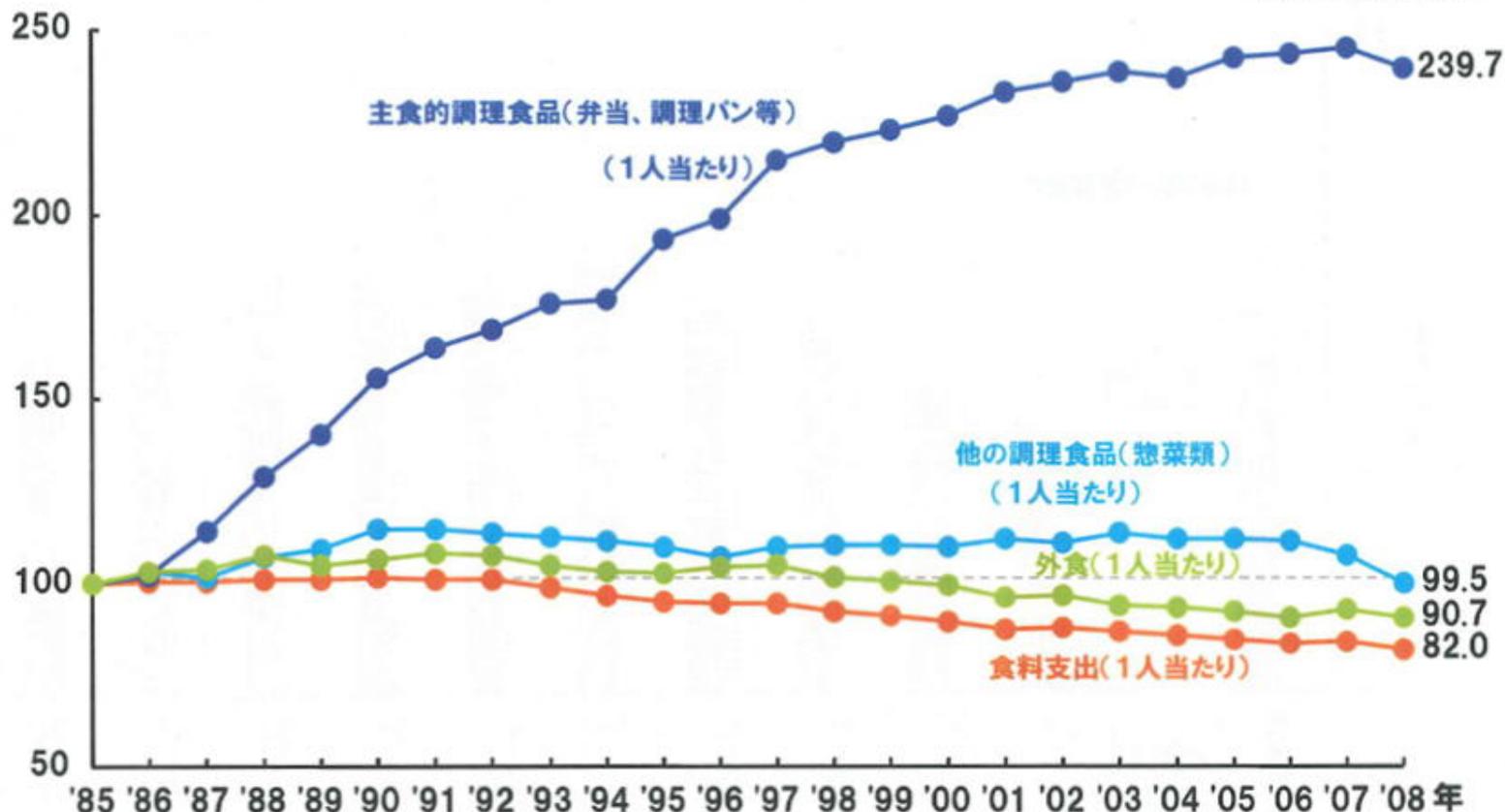


味の素 AMC調査(2009)

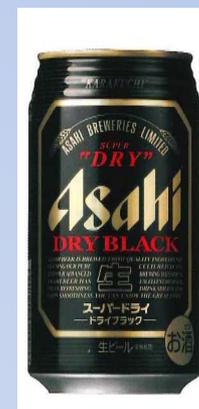
主食的な中食の伸びが大きい

外部化支出の実質推移（1985年=100とした価格変動分を除いた実質比較）

総務省「家計調査」



いまヒットしている商品



日本食糧新聞社 24年度食品ヒット大賞

食ってどういう市場？

市場の実態

- 新商品年間5万点 競合商品極めて多い
- 低価格化 PB商品の拡大
- 10億円売ればヒットだが、割合は0.2～0.3%
- 投資回収は難しい

消費者ニーズの方向

- 簡便化、個食化
- 不況で内食、家飲み of 定着
- 健康、ヘルシーに根強い人気

**事故は必ず起きる！
注目するのは企業の対応**

どう防ぐ 食品の毒物混入





ピザやコロッケ9商品からマラチオン成分

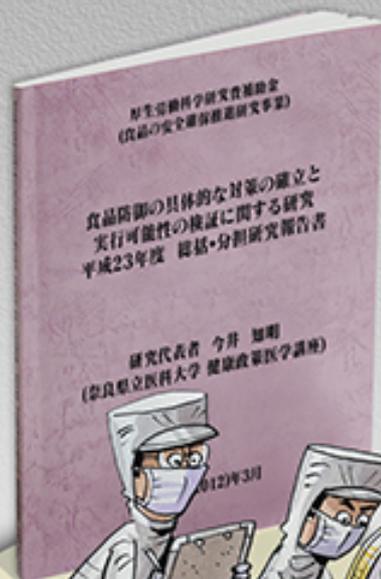
2,800人以上が健康被害を訴え

従業員300人から聞き取り

40代の従業員を逮捕



食品防御対策ガイドライン



部外者対応

- ✓ 立ち入り区域の設定
- ✓ 荷物の受け渡し

施設管理

- ✓ 薬品の管理
- ✓ 製品数の管理

従業員対策

- ✓ 身元確認
- ✓ 作業の監視
- ✓ 態度の変化の把握

アクリフーズの対応

11月13日 ミックスピザから異臭のクレーム

塗料などの成分調査を開始

12月17日 農薬分析を開始

27日 ピザからマラチオン検出

29日 回収を発表

健康被害を過小評価

危機感に欠ける対応



「霧島ポークの上海醤油煮込み」

神戸産豚肉を使用

「若鶏の照り焼き 九条ネギのロティと共に」

一般的なネギを使用

「手捏ね煮込みハンバーグ」

加工品で提供

「フレッシュジュース」

瓶詰ジュースを使用

1,700円

1,400円



※表記の時間はラストオーダーの時間です。※写真はイメージです。※表記の価格は1人様の標準サービス料を含みます。



対象は生鮮食品・加工食品

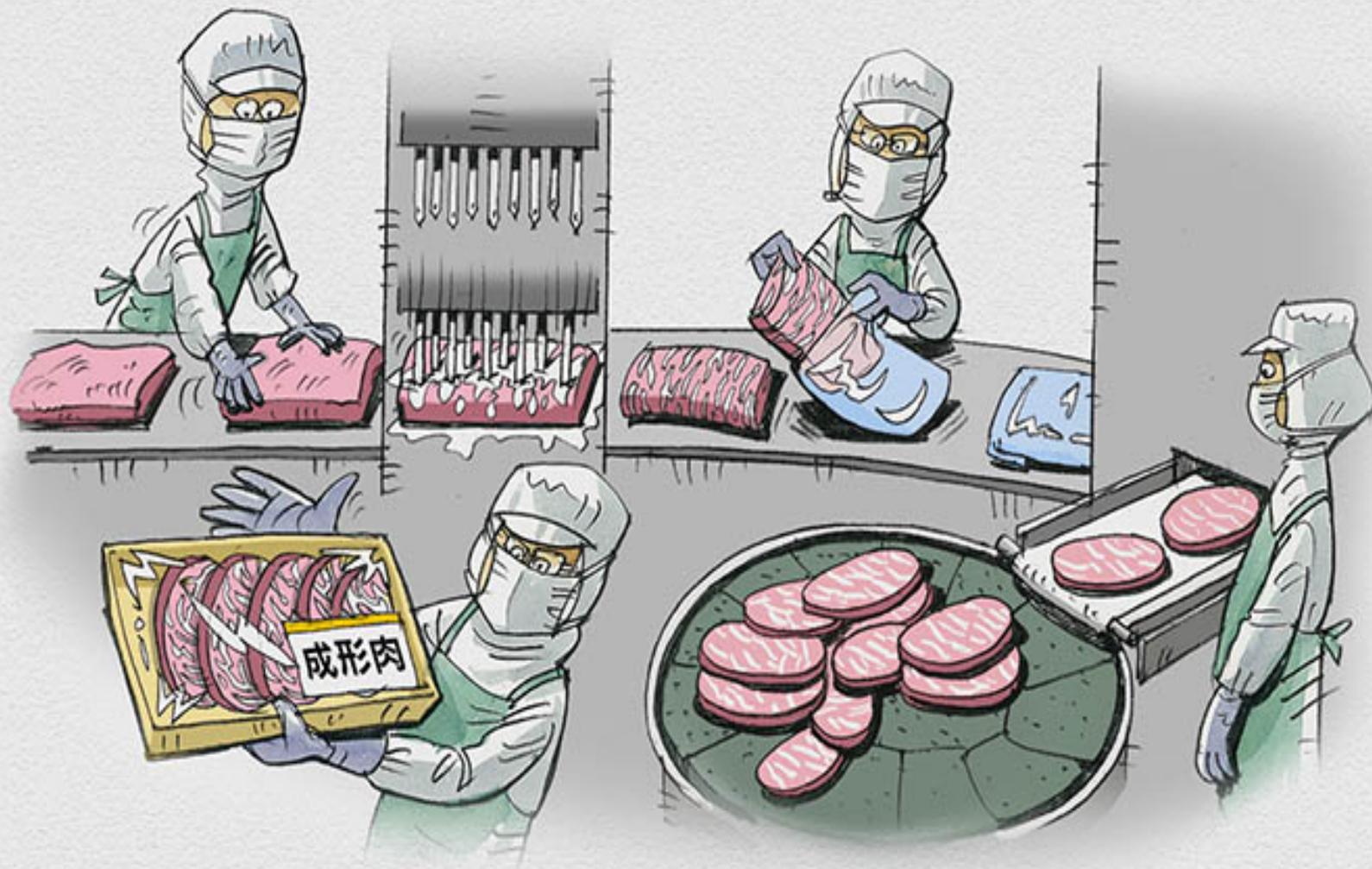


直接問い合わせが出来る

**不当景品類および
不当表示防止法**

**事後規制
消費者や事業者の申し出**

食品加工技術の進歩



業界内のルールは通じない

誰の立場で説明？

記者は相当勉強して臨んでいる。

注目するのは企業の「対応」

イメージとのギャップが大きいかどうか？

構造的なものか否か？（関連ニュース）

 素人の記者が一番怖い

専門家と消費者の考え方の違い



科学的に考える
統計を重視
食中毒のリスク



長期的影響への不安
出てきたときには手遅れ
いつの間にか広がっている
BSE・遺伝子組み換えは×
レバ刺し○

「異物混入」ニュース項目件数(NHKのみ)



2004.4 菓子メーカー「シャトレーゼ」が製造した菓子に金属片(甲府)

北海道「四つ葉乳業」から仕入れたドイツ産のバターを使った菓子から金属片が見つかり、兵庫県内の男性が口の中を切るけが。シャトレーゼは金属片混入が分かってから12日間放置。販売されていたことが分かってからも4日間公表していなかった。

2008.8 給食異物混入で公表基準(鳥取)

県立鳥取聾学校と盲学校の給食に袋の切れ端やはえなどの異物の混入が相次いだ問題で県教委が公表基準。基準では▼金属類やガラス片など健康被害の恐れが高い異物が混入した場合や▼食品が腐っていたり異臭がした場合などは公表する。卵の殻や髪の毛など健康被害の恐れが低く、業者側に過失がない場合は公表しない。しかし短期間に数回続いた場合には公表する。

2008.5 異物混入で警察が対策(福島)

スーパーなどで食品に金属などが混入する被害を受けて、軒警察本部は緊急の対策室を設け対応。具体的には▼スーパーなどに対して防犯カメラの設置を呼びかけるほか、▼パトロールを強化する。

大手ハンバーガーチェーン問題の特異性

- ✓ SNSから火が付いた
- ✓ 身近な会社ほど関心は高い
- ✓ 「消費期限切れの食品使用」を引きずった？
- ✓ 何となく不安の増幅
- ✓ 会見の失敗

“普通の感覚”で報道する



安心情報より リスクを伝える方が先



- ◆まずは視聴者の関心を集める
- ◆不正を追求する使命
- ◆危険性は徹底的に排除したい
- ◆パニックを起こさない

放送法第4条

- 公安および善良な風俗を害しないこと
- 政治的な公平
- 事実を曲げないこと
- 意見が対立している問題は多面的に
報道

行きすぎた報道も・・・



2007年1月 朝の情報番組

不二家の期限切れ原材料使用問題に関する一連の報道の中で、

「賞味期限の切れたチョコレートの包装をし直したり、溶かし直して再使用していた」と報道

司会の、みのもんた氏が
「古くなったチョコレートを集めてきて、それを溶かして、新しい製品に平気で作り替える会社は、もうはっきり言って、廃業してもらいたい」と発言

BPO(放送倫理検証委員会)

「内部告発の存在自体に捏造はないものの、重大な放送倫理上の問題があった」

増えてきた勉強会、意見交換会

- ・食品安全委員会
 - ・厚生労働省
 - ・農林水産省
 - ・消費者庁
-
- ・食の安心安全財団
 - ・日本添加物協会
 - ・foocom
 - ・東京大学 食の安全研究センター
 - ・日本獣医師会

食の安全を守るために

- 行政の管理
- 情報の収集
- 企業の法令遵守
- 市民の監視(マスコミも)

食品安全基本法

- 第一条

この法律は、科学技術の発展、国際化の進展その他の国民の食生活を取り巻く環境の変化に適確に対応することの緊要性にかんがみ・・・

国、地方公共団体及び食品関連事業者の責務並びに消費者の役割を明らかにするとともに・・・

食品の安全性の確保に関する施策を総合的に推進することを目的とする。

<http://www.nhk.or.jp/kaisetsu/>

有り難うございました。